一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

平安時代から江戸時代のはじめ頃まで、正坐は極めて珍しい坐り方であったのだが、幕末になるとこれが町人女性の一般的な坐り方になっている。日本人の生活に正坐が登場し、庶民一般にまで広まるそもそものきっかけとはどのようなものだったのだろうか。

これには諸説があるけれども、ひとつはっきりしているのは①徳川幕府が制定した武家儀礼の影響力である。正坐の存在を示す例ということであれば、少数ではあるけれども古代にも中世にもある。[A] これが江戸時代になると戦乱が治まり、参勤交代をはじめとして、諸大名の守るべき儀礼や格式が厳格化していく。とくに将軍に拝謁する儀礼では、身分にもとづく坐次（席順）や服装、言葉遣い、さらに「坐作進退」と言って、坐り方から立居振舞いに至るまで厳格に作法が定められた。[B]

徳川幕府の制定した厳しい管理体制は、血の気の多い武将たちを押さえ込むことを第一目的としていたわけだが、その原型は室町幕府の武家儀礼を※踏襲したものが大半を占めていて、両者は非常に多くの共通点をもっている。ただし、正月の将軍への拝謁のときの坐り方が、室町時代には「※安坐」や「※胡坐」であったのに対して、江戸時代の二代将軍秀忠の頃には、「端坐（正坐）」となるなど、この間、坐り方の作法に変化が生じていることを、中世史家の※二木謙一氏が指摘している。[C]

武家儀礼とはあくまで将軍家を中心とした上級武士のためのもので、②それが世間一般に広まるまでにはさらに時間を要しただろう。しかし、それよりもと [I] な問題として、室町時代から江戸時代の間に、武士の坐り方が「安坐」から「端坐」に変わったことの意味を考えてみたい。③両者は身体の技法としてはまったく異なる性質をもった坐り方なのである。

日本人の坐り方を考えるとき、江戸時代という時期は大きな分岐点であったようだ。[D] この時代に「正坐」が徳川幕府の武家儀礼から庶民一般へと広まっていったことはまちがいないが、それ以前、④中世の武士たちが好んでこの坐り方をすることはなかったことは、これまでくり返しみてきた。

中世の絵巻で確認できる「正坐」の事例は、僧侶と女性の数例に限られていて、武士はだいたい安坐や胡坐で坐っている。この頃、身分の高い男性はみな膝を大きく横に広げてどっかりと坐っていて、僧侶のほんの数例の他には、膝を閉じて「端坐」している男性の姿はまず見つけることができない。[E]

ここで「貴人坐」について思い出していただきたい。古代・中世の身分の高い男性は、股間の前に踵と踵を合わせて、安坐や胡坐よりももっと大きく膝を横に広げて坐る作法をもっていた。

可能な限り膝を大きく横に広げ、立烏帽子や冠を被り、自分の存在をより大きく見せることを好んだ古代・中世の男性たちが、慎ましく膝を閉じた「正坐」の姿勢を好まなかったことは容易に想像がつく。※豊臣秀吉に仕えた⑤茶人の※利休でさえも、その肖像画には膝を大きく横に広げた胡坐に近い坐り方をした姿で描かれているのである。

江戸時代になるとそれまでの常識が覆り、「端坐」という新しい価値が武士の間に定着しはじめる。それは「端正に坐る」ということの他にも、※坐次を重視した※殿中の儀礼においては「下座の端から坐る」という「折り目正しさ」も求められたことを意味している。将軍に拝謁するもっとも格式の高い儀礼のなかで、忠誠を誓う大名たちの坐法は、各々の存在をより大きく見せる安坐や胡坐よりも、慎ましく膝を閉じて「かしこまった」坐り方がより好ましいと考えられたにちがいない。また⑥それは、身分の高い者に対する「つくばう（屈服する）」という身体的な記号でもある。

血の気の多い武将たちが膝をぶつけ合っていた戦国の時代から、天下太平の世を実現した江戸時代へと移り、幕府は地方の藩主が※謀反を起こしたりすることのないようにその力を押さえ、将軍に対する忠誠を守らせることを [II] な使命とした。戦乱のない平和な時代を維持するために全国に布かれた幕府の強力な管理体制があり、この時代を境に、武士においては、自分の武力や政治力の大きさを誇示することよりも、慎ましく分を弁え、身を小さく保ちながら、御上に対する忠誠を厳守することが美徳とされた。その「かしこまった」生き方を象徴する身体的な記号のひとつが「端坐」であり、新しい時代の到来を象徴する上級武士の坐り方として定着してゆく。

（矢田部英正『日本人の坐り方』一部改変）

（注）
※ 踏襲……前人のやり方をそのまま引き継ぐこと。
※ 安坐・胡坐……どちらもあぐらに近い座り方のこと。
※ 二木謙一……一九四〇年～。東京都出身の歴史学者。
※ 豊臣秀吉……一五三七？～一五九八年。戦国・安土桃山時代の武将で、織田信長に仕えた後、天下統一を果たした。
※ 利休……千利休。一五二二～一五九一年。「わび茶」の完成者。秀吉の側近だったが、後に関係をこじらせて切腹させられた。
※ 坐次……座る順序。
※ 殿中……将軍がいる場所。
※ 謀反……国家や君主に対して兵を挙げること。

問一　この文章は以下の部分が欠落しています。この一文は本文中の [A] ～ [E] のどこに入りますか。記号で答えなさい。

しかしその頃は、正坐をひとつの作法として確立し、世に広く普及させるという動きは起こらなかった。

問二　[I] ～ [II] に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　主観的　　イ　絶対的　　ウ　多様的　　エ　根本的

問三　傍線部①「徳川幕府が制定した武家儀礼」とありますが、その儀礼において、武士の理想とされたのはどのようなことですか。文中より二十五字以上、三十五字以内で探し、最初と最後の五字を答えなさい。

問四　傍線部②「それ」の指す内容を、文中より抜き出しなさい。

問五　傍線部③「両者は身体の技法としてはまったく異なる性質をもった坐り方なのである」とありますが、「両者」の「性質」とは具体的にどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　「安坐」は膝を伸ばした、心身共に自由で楽なものであり、「端坐」はきっちり膝と膝をそろえた、心身共に負担の大きなものである。
イ　「安坐」は膝の上に踵を乗せた、男らしさを示しているものであり、「端坐」は体を美しく伸ばした、女らしさを示しているものである。
ウ　「安坐」は膝を横に広げた、体を大きく見せるものであり、「端坐」は膝を閉じた、控えめで相手を畏れ敬う気持ちを示すものである。
エ　「安坐」は膝を横に広げた、体を楽にするためのものであり、「端坐」は膝を閉じた、緊張の気持ちを示すものである。

問六　傍線部④「中世の武士たちが好んでこの坐り方をすることはなかった」とありますが、それはなぜだと筆者は考えていますか。六十字以内で説明しなさい。

問七　傍線部⑤「茶人の利休でさえも、その肖像画には膝を大きく横に広げた胡坐に近い坐り方をした姿で描かれているのである」とありますが、この部分からどのようなことがわかりますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　武士ではない利休が胡坐に近い坐り方をしていた例を示すことで、利休の立場や才能が立派なものだったことがわかる。
イ　茶人である利休が胡坐に近い坐り方をしていた例を示すことで、江戸時代以前の武士以外の男性も胡坐を好んでいたことがわかる。
ウ　茶人である利休が胡坐に近い坐り方をしていた例を示すことで、江戸時代以前の人々は胡坐で坐ることを儀礼として決められていたことがわかる。
エ　武士ではない利休が胡坐に近い坐り方をしていた例を示すことで、江戸時代以前の身分制度が混乱を来していたことがわかる。

問八　傍線部⑥「それ」の指す内容に最も近いものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　膝をぶつけ合うこと。
イ　「かしこまった」坐り方が好ましいと考えること。
ウ　「安坐」や「胡坐」で坐ること。
エ　「端坐」で坐ること。

問九　次のア～エが本文の内容に合致していれば○、合致していなければ×を、それぞれ解答欄に記入しなさい。

ア　江戸時代になっても、「端坐（正坐）」は男性の坐り方であったので、女性はほとんど用いなかった。
イ　室町時代と比べて、江戸時代の武士に課せられていた儀礼や作法は、より厳しいものになっていた。
ウ　古代・中世において、武士ではない人々が「端坐（正坐）」をすることはまったくなかった。
エ　江戸時代における「端坐（正坐）」は、目上の者に対する忠誠を示す美徳とされ、定着した。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限がある場合には、句読点・記号も字数に数えます。

北斗は小学校を卒業し、春休みに、マウンテンバイクで東京から大阪に向かう冒険の旅に出る。

コンビニのレジの横には大抵ポットが置いてある。中には熱湯が入っていて、買ったカップ麺をその場で作ることができるのだ。

①北斗は前から、このポットを使ってみたかった。別にポットが珍しいわけじゃないけれど、自分で買って店先で作って食べるというのに妙な憧れを抱いていた。それを今日、藤沢市のコンビニで実行することができた。

もちろんこれまでだって、自分の小遣いで買って食べることくらいはできた。だけど単にカップ麺を食べたかったわけじゃない。北斗が憧れたのは、②朝の通学路のコンビニから作業着姿のおじさんたちが湯気のたつカップを持って出てくる姿とか、受験組の友達が夕方に塾に行く前にコンビニ前のバス停のベンチで食べている姿とかだった。どうしてだか分からなかったけど、自分もいつかそういう感じで食べてみたいと思っていた。

その憧れの正体が分かったのはテレビを見ている時だった。クイズ番組の中で、③カップ麺が日本じゅうに広まったきっかけは何でしょうという問題があったのだ。正解は何十年も前に起きた※浅間山荘事件とかいうやつで、立てこもる犯人を取り囲んだ警官隊が食糧としていたのが、当時発売されたばかりのカップヌードルだったらしい。武装した警官が食べている姿がテレビのニュースで流れてから売れ行きが伸びたということだった。

きっとその時テレビを見ていて真似したくなった人だって、北斗と似たような気持ちだったのだろう。単に食べているのを見て食欲を刺激されたわけじゃなくて、何かやろうとしている時にとりあえず食べている姿がカッコよく見えるのだ。そこには味や手軽さとは違う何かがある気がして、北斗はそれを体験してみたかったのである。

だからこうして、冒険の旅のサイクリング中というのはちょうどいい場面だった。コンビニの前にマウンテンバイクを止め、駐車場の車止めブロックに座って食べるというのも悪くない。アスファルトの上にカップを置いて蓋を外し、湯気を顔に浴びると④旅の中で食べているという感覚を満喫できた。

割り箸で麺をすすっていると、近くの大型車用スペースにトラックが入ってきた。運転席にいるのは二十代くらいの男で、短い髪にパーマをあてている。なんとなくおっかなそうな人だなあと思っていたら、車を止めてこっちに歩いてきた。

北斗には気づかずに通りすぎた彼だったが、入口のところで北斗の自転車に気づいた。それから店内を覗き、北斗の方を振り返ってきた。

こんなところで食事をしているのを咎められるのかと［X］が、北斗に話しかけてきた声は穏やかだった。

「サイクリング？」

「……はい」

すすりかけた麺を口にしたまま、もごもごと返事をした。運転手の男はにやっと笑い、北斗から目を逸らして店の中に入っていく。

⑤何だったんだろうと思った。特に悪意はなかった気がするけれど、店員に向かって北斗のことを話してないかと気になった。変な子供がいるぞと通報されれば店員だって放っておいてはくれないだろう。追い払われる前に食べきってしまおうと、急いで麺をかきこんだ。

さっきの運転手が出てきたのは、北斗がスープを飲み干しにかかっていた時だった。

「ほれ」

ビニールの袋の中から、五百ミリのスポーツドリンクを突き出された。⑥ぽかんとしている北斗に、怒ったように告げてくる。

「差し入れ」

「あ……どうも」

びっくりして、まともなお礼も言えなかった。彼はそのまま歩いていきかけたが、立ち止まって北斗の自転車を振り返った。

「⑦俺もこないだ買ったんだ。マウンテン」

それだけ言って、小走りにトラックへと走っていく。すぐにエンジンがかかり、トラックは駐車場の中で向きを変えている。

北斗は慌てて立ち上がり、運転席に向かってぺこりと頭を下げた。目が合うと、運転手さんはにやっと笑って軽く手を上げてくれた。

ぐるりと半回転して後ろ向きになると、後ろについたランプが何度か点滅した。どうやら行き先は北斗が走ってきた方向らしい。軽いクラクションの音を残してトラックが走り去っていく。

北斗も手を振って見送った。今になってようやく笑顔を向けることができた。

（注）　※　浅間山荘事件……一九七二年に起こった、立てこもり事件。

（竹内真『自転車冒険記　12歳の助走』一部改変）

問一　傍線部①「北斗は前から、このポットを使ってみたかった」とありますが、それはなぜですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　旅の中で何度か目にしたことがあり、ずっと気になっていたから。

イ　自分の小遣いで、カップ麺を買って食べてみるというのが夢だったから。

ウ　自分で買ったカップ麺を、店先で作って食べてみたいと願っていたから。

エ　自由な旅の中でないと、カップ麺を食べることなどできなかったから。

問二　傍線部②「朝の通学路のコンビニから作業着姿のおじさんたちが湯気のたつカップを持って出てくる姿とか、受験組の友達が夕方に塾に行く前にコンビニ前のバス停のベンチで食べている姿」とありますが、それはどのような姿だと言えますか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　多種多様の人たちが、穏やかな日々を過ごしている姿。
イ　さまざまな人たちが、日常風景の中に溶け込んでいる姿。
ウ　忙しい日々を送る人が、一時の休息を味わっている姿。
エ　目的をもっている人が、それに臨む前に腹ごしらえをする姿。

問三　傍線部③「カップ麺が日本じゅうに広まった」とありますが、北斗はそれをなぜだと思っていますか。六十字以内で説明しなさい。

問四　傍線部④「旅の中で食べているという感覚」とありますが、それはどのようなものですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　コンビニの駐車場でカップ麺を食べるという、急き立てられるような感覚。
イ　コンビニの駐車場でカップ麺を食べるという、非日常的な雰囲気を味わっている感覚。
ウ　冷えた体で温かいカップ麺を食べるという質素さが、逆に贅沢に思える感覚。
エ　冷えた体で温かいカップ麺を食べるという、緊張がほっとゆるむような感覚。

問五　［X］に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　肩をすくめた
イ　あごをしゃくった
ウ　身を固くした
エ　目を丸くした

問六　傍線部⑤「何だったんだろうと思った」とありますが、このとき北斗は、運転手が自分のことをどう思っていると感じていたのですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　北斗のような子供が、たった一人で旅をしていることを感心なことだと思っている。
イ　北斗のような子供が、コンビニの駐車場で食事をしていることを不審に思っている。
ウ　北斗のような子供が、マウンテンバイクに乗っているなど生意気だと思っている。
エ　北斗のような子供が、マウンテンバイクで旅をすることなど不可能だと思っている。

問七　傍線部⑥「ぽかんとしている北斗」とありますが、北斗が「ぽかんとし」たのはなぜですか。それを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　運転手が目障りに思っている自分に話しかけるはずはないと確信していたから。
イ　運転手が、何に対して怒っているのかわからなかったから。
ウ　運転手が見かけとは違って、とても心の優しい人だとわかったから。
エ　スポーツドリンクを差し出してくる運転手の意図がわからなかったから。

問八　傍線部⑦「俺もこないだ買ったんだ。マウンテン」とありますが、運転手のこの言葉から読み取れる気持ちを表した熟語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　共感
イ　同情
ウ　緊張
エ　自慢
オ　不安

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① 新記録をジュリツする。
② 有名なハイユウに会う。
③ 昆虫をカンサツする。
④ 布を青くソめる。
⑤ ごみをスてる。

四

次の①～⑤の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

① 安全装置を備えつける。
② 山奥の寺に参拝する。
③ 厳しい規律を設ける。
④ 訳のわからぬことを言うな。
⑤ 言葉の誤りを指摘する。

五

次の①～⑤の□に漢字一字を入れて、下の意味になるように慣用句を完成させなさい。

① □に着せる　…自分のしたことを、相手にありがたがらせること。
② □が熟す　…物事がよい状態になること。
③ 口を□る　…白状すること。
④ □が細かい　…すみずみまで工夫してあること。
⑤ □をつく　…全部なくなること。

二月一日午前入試

二〇一七年度 宝仙学園中学校共学部 理数インター 入学試験問題

国語解答用紙

受験番号

氏名

得点 ※ /100

※印には記入しないこと

一

問一

問二 Ⅰ Ⅱ

問三

問四

問五

問六 60 40 20

問七

問八

問九 ア イ ウ エ

※

二

問一

問二

問三 60 40 20

問四

問五

問六

問七

問八

※

三

① ② ③ ④ める ⑤ てる

※

四

① ② ③ ④ ⑤ り

※

五

① ② ③ ④ ⑤

※